

効果 全校で意識が高まり 成果研究は日本学生科学賞に

生徒たちは「自分たちは環境について取組んでいる」という自覚をもってビオトープ管理に取り組んでいる。当校が独自に実施している「環境アンケート」では、自然に対する理解や接し方についての意識は3年生がいちばん高く、学年を進むごとに理解が進んでいることが確認できている。

当校は運動系部活動に参加している生徒が非常に多く、直接の活動には参加していないように見える生徒もいる。しかし、大きなものの移動など、体力が必要な活動の時には部をあげて手伝ってくれており、ビオトープが目指すものの意義をよく理解しているようである。

フィールドサイエンス部は、ビオトープでの作業や、そこに生息する680種もの昆虫の研究をまとめ、一昨年の日本学生科学賞で全国ベスト12にあたる賞を受賞。これまでの伝統的な活動の成果がはっきりと証明された形となった。ビオトープづくりでも、その成果を正確に調査したケースは稀であり、他のビオトープづくりの参考になると思われる。



ビオトープ通信



動植物の四季パネル

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

池を含むビオトープは管理が大変で、元々池のあるような地形以外だと経費や手間がかかりすぎ、管理が難しいと思います。多数の先生が心底共感してくれ、同じ目線で時間をかける必要があるでしょう。

現在の多忙な状態でこのようなチーム作りは容易ではないことを覚悟し、さらに小規模でも個人で取組む場合は、他の仕事を軽減してもらったり、校舎外にしばしば出ていることを理解してもらおう必要があると思います。ほぼ毎日全体を見回るくらいの時間が最低限必要です。

また、いるべきところに生物がいるということを考えると、たとえば周辺にホタルが全くいない場所にホタルの庭園をつくるなどというのは、本来のビオトープではありません。

理論面でも、現実的にもぶつかる壁が多いので、他の実施校に問い合わせることが有効だと思います。生物保護の本旨からはずれたビオトープづくりが多いので、学校が建ったことで失われた環境を回復することを目標にしていれば、生徒への説明として「チョウが舞う校庭」という標語を唱えることも有効だと思います。

ソーラーパネル

